

人権さんだ

6 月号

令和7年(2025)

No.555

ディーブイ
DVについて知る

《問い合わせ》
健康福祉部 人権共生推進課
TEL: 559-5148 FAX: 563-7776
E-mail: jinken_u@city.sanda.lg.jp



毎年6月23日から29日までの1週間は「男女共同参画週間」です。

国により平成11(1999)年に制定された「男女共同参画社会基本法」の目的や基本理念について、国民の理解を深めるために設けられています。

令和4年3月に三田市が実施した「三田市男女共同参画市民意識調査」では「DV(ドメスティック・バイオレンス)とは何かを知っていますか?」という質問を行い、「内容を知っていた」は約80%、「言葉は聞いたことがあった」は約15%でした。「DV」という概念が一定程度認知されていることがわかります。しかしながら、殴るなどの身体的暴力や、大声でどなる、無視するなどの精神的暴力については、認知度が高いものの、行動を制限されるなどの社会的暴力については理解されていないという調査結果も出ています。

人権さんだアンケート

ご感想や今後取り上げてほしいテーマをお寄せください。



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

DVの現状と課題

DVは、配偶者や交際相手など親密な関係にある者、またはあった者から一方的に振るわれる様々な形態の暴力です。配偶者などからの暴力や支配は、外部からの発見が困難な家庭内において行われるため、潜在化しやすく、しかも加害者に罪の意識が薄いという傾向にあります。このため、周囲が気付かないうちに暴力がエスカレートし、被害が深刻化しやすいという特性があります。また、繰り返し暴力を受ける、命の危険を感じるような暴力もあります。

DVの背景には「男は仕事、女は家庭」といった固定的な役割分担意識や、妻に収入がない場合も多いといった男女の経済的格差があると言われています。また、「夫婦喧嘩は犬も食わぬ」ということわざのように、夫婦のもめごとに他人は口を出さないという考え方もあり、夫が妻に暴力を振ることが見過ごされ、個人の問題として片付けられない構造的問題も大きく関係しています。

身体的暴力

殴る、蹴る、物を投げつける、髪を引っ張る、首を絞めるなど



精神的暴力

大声で怒鳴る、無視する、刃物を出す、不機嫌な態度や威圧的な態度など



経済的暴力

生活費を渡さない、無断で借金をする、仕事を辞めさせるなど



社会的暴力

外出などの行動を制限する、相手のスマホをチェックするなど



性的暴力

合意のない性行為、避妊に協力しない、裸の写真を撮るなど



子どもを巻き込んだ暴力(※)

子どもの前で暴力を振るう、子どもに相手の悪口を吹き込むなど
 ※ このような行為は面前DVと呼ばれ、子どもを傷つける児童虐待にもあたります。

交際相手からのDVを「デートDV」と呼びます。

- ・ 「別れるなら死ぬ」と脅される。
- ・ 家に勝手に居座ったり、プライベートなことに干渉される。
- ・ 服装や髪型に文句を言われる。
- ・ 性的な画像を撮影されたり、見せられたりする。

デートDVとは

DVの中でも特に、結婚していない交際相手からのDVを「デートDV」と呼びます。この場合、離婚などの手続きが取れないため、法的な解決が難しい場合があります。

DVの根本的な原因は、相手の方で支配することのできる対象としてみなす考え方です。相手を思い通りにしようとすることは、対等な二人が「ケンカ」をすることとは全く違います。

DVを防ぐには、親密な関係であってもお互い境界線を保ち、日ごろから、いやなことでもいいことも安心して意思を伝え合える関係を築くことが大切です。

DVの相談先

相談先・電話番号	
三田市配偶者暴力相談支援センター	079-563-7830(平日、第2・4土曜日9:00~17:15)
兵庫県女性家庭センター	078-732-7700 (毎日9:00~21:00)
兵庫県警察ストーカー・DV相談	078-371-7830 (24時間)
DV相談+ <small>プラス つなぐ はやく</small>	0120-279-889 (24時間)



DVかも?と思ったら相談しよう

これって暴力? DV? 強要されてるかも? 迷った時は相談電話へ連絡ください。相談員が状況を聞き取って、いっしょに解決策を考えます。

人権コラム



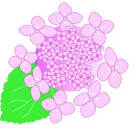
DVと言え、男性から女性への構図を考えがちですが、警察庁によると、配偶者からの暴力などに関して2023年に寄せられた相談件数のうち全体の27・9%が男性からでした。男性からの相談は、女性からの相談の半分以下ではあるものの、全体に占める男性からの相談の割合は増加傾向にあります。社会環境の変化から相談しやすくなったのかもしれませんが、「弱音を吐けない・・・」と思わずに、早めに相談することが大切です。

使ってみよう

「やさしい日本語」

「やさしい日本語」とは、外国人にもわかりやすいように、言葉や話し方に配慮した、「易しい・優しい」日本語です。

阪神・淡路大震災をきっかけに、外国人に災害情報をも早く確実に伝えるために考案され、普段の



使い方のポイント

難しい言葉をやさしい言葉に置き換える。

漢語よりも和語を使いましょう。

学校編

- 登校 ⇒ 学校に行く
- 下校 ⇒ 学校から帰る
- 弁当持参 ⇒ お弁当を持ってくる
- 欠席 ⇒ 休む

仕事編

- 検討 ⇒ 考える
- 返却 ⇒ 返す
- 記入 ⇒ 書く
- 注意する ⇒ 気をつける

コミュニケーションにも使われるようになりました。「やさしい日本語」は、コツを押さえれば簡単に使うことができ、外国人とのコミュニケーションに役立ちます。「やさしい日本語」には正解がなく、相手が理解できるよう工夫して使うことが大切です。

令和7年度 市民啓発講座のご案内

【テーマ】「差別が生じるメカニズムとその克服に向けて 部落差別を事例として」

【日時】6月21日(土) 10時30分～11時40分
 【場所】まちづくり協働センター(ホール2)
 【講師】内田 龍史さん(関西大学社会学部教授)
 【定員】90名

【内容】「世の中のあたりまえは、マジョリティに合わせて作られている?」「悪意がなくても、差別が生まれる?」 私たちの社会には、なぜ差別が存在するのでしょうか?部落差別や、その差別が生じるメカニズムについて分かりやすく、お話しいただきます。



右記二次元コードからお申し込みください。

締切:6月13日(金) 17時まで

※ 手話通訳・要約筆記・一時保育が必要な場合は、締切までにお申し込みください。電話・FAXでのお申し込みも可能です。
 (問い合わせ先) 三田市人権共生推進課 TEL:559-5148 FAX:563-7776
 E-mail: jinken_u@city.sanda.lg.jp



令和6年度 人権ポスター・標語受賞作品



すずかけ台小学校6年(前年度) 菅蒲 十馬さん

● ぼくの色 君の色 合わせてかける にじの橋
 ● 学園小学校5年(前年度) 道明 蓮和さん

くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
 月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談(予約制)

TEL 559-5062 FAX 559-5063
 月曜～金曜 9時～17時(※祝日・年末年始を除く)
 ※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員による定例人権相談(予約制)

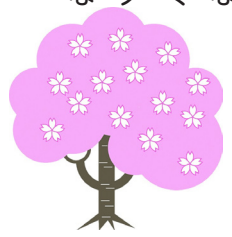
TEL 559-5148 FAX 563-7776
 《次回相談日》6月26日(木) 13時～16時

大切にしていること

三田市立藍中学校教職員 足立 将也さん

出会い

桜が舞う四月、私たちは新入生を迎える。真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで教室に座る一年生。私たちの言葉一つ一つを真剣に聞き、教卓に立つ私を見る。この時の子どもたちは純粋そのものだ。私は、この日が学校生活の中で最も楽しい瞬間の一つである。どんな子どもたちが入ってくるのか、どんな反応を見せてくれるのか、ワフワフが止まらない。



繋がり

学校生活が始まると、子どもたちにとって楽しいことばかりではない。時には失敗し、注意されたり怒られたりする。一緒に生活をしていると、クラスの友だち同士でのトラブルも起きる。また、テストも子どもたちの悩みの一つだろう。しかし、子どもたちが、この中学校という渦の中でも、もがき苦しみ、壁にぶつかりながらなんとか前に進むうとする姿勢にはいつも驚かされ、勇気をもらう。

私が学級を運営する中で大切にしていることは、生徒とのつながりである。例えば、毎朝、連絡帳である「忘れないぞう」を回収する。

令和6年度
ラブピース4コマまんが受賞作品

「タッチでなかよし」



三輪小学校 6年 (前年度)

田中 亜依さん

「忘れないぞう」には、毎日、たった四行ほどではあるが、コメントを書く欄がある。そこには生徒に自由に書きたいことを書くように言っている。自分の気持ちを絵で表現する生徒や日記のように四行ぎっしりその日の出来事を書く生徒、家でお母さんとけんかをしたことを報告する生徒もいれば、悩みを打ち明ける生徒もいる。このように、たかが連絡帳の中に、その子の心のうちが隠されていることが多々ある。私は、その些細な変化にアンテナを張り、気づけるようにすることを大切にしている。この変化に気づき、私たちが寄り添って解決に導いていけると、生徒たちとより関係が深まったと感じる。

最近では、人工知能の発達で、学習から悩みの相談までこなしてしまう。しかし、人との繋がりや思いやり、変化に気づく力などは日々の様子を見たり、会話をしたりしないといけない。この点においては人工知能ではなく私たち教師のほうが優れていると思う。優れていなければならぬと思う。

別れ

三年生になると、ほとんどが初めてであろう人生の岐路に立たされる。どの学校に進むのか。何をしたいのか。合格できるのか。さまざまな選択肢、不安の中から選択した進路を選ぶ。この頃にはもう一年生の面影はほとんどない。立派な大人である。

卒業式、小さくなった制服に入学式とは違う堂々とした姿。この姿を見るだけで感動をする。そして、最後、感謝を伝えてくれる生徒もいる。この時にいつも思う。果たして本当にこの子たちのために何かできたのだろうか。もっとしてあげられることがあったのではないか。しかし、巣立っていく生徒たちの表情を見ていると、そんなことよりも嬉しさが心がいっぱいになる。これだから教師の仕事は辞められない。子どもたちには、強くたくましく生きていつてほしいと願う。そして、四月、また新たな生徒たちと繋がりを広げていく。